

ローカルメディアによる 地域の魅力発信

特集

特集4 [今治市]

まずは街を知ること。
きっとそこに何かがある。



NPO法人 みとん今治
代表
荒木 貴大

舞たうん
Vol. 145

10年ぶりの今治生活で感じたこと

2014年。高校卒業以来離れていた今治に戻ってきた。本格的に住むのはおよそ10年ぶり。

高校時代は行動範囲も、人間的な視野も狭く、興味のあることはもっぱら友達や部活のこと。今治のどこに何があるかなんて、もっと言えば地名もほとんど知らな

かった。そんな私が今治に帰って一番初めに欲しかったものが「Web」で見られる情報だった。当時の今治は、Webで情報を得ることは難しかった。主要なメディアは新聞・テレビ、それに加えてフリーペーパーが細かな情報源の一つだった。スマホが全国民に行き渡っているこの世の中で、Web上に情報がないのはもったいない。10年前から止まった自分の中の今治の情報を改めてインプットしていくためにも、この部分はきつと大事になる。そう感じた私は、Webサイトを作ることにした。

実はこの当時、私は愛媛県農業大学校で学生生活をしていた。愛媛に戻ってやりたかったことは農業。それなのにWebサイトを作ることにしたのだ。Webサイトを作るといながらも、Web系の仕事の経験はなし。いわゆる「ググる」専門だった。今思えば、順番がめちゃくちゃだったかもしれない。そんな時に当時仲良くなったWebデザイナーに相談し、快く引き受けてもらって、Webサイトの枠は完成した。ただ、このサイトは作って終わりではない。毎日がコンテンツであり、日々進化するものだ。つまり、スタートラインに立つことができる。

毎月5万人が訪れる「みとん今治」とは

ここで初めてWebサイト「みとん今治」をご紹介する。みとん今治とは、今治地域特化型の情報サイトだ。飲食店の紹介、イベントのレポート、人を特集した記事だっ



飲食店の記事はもちろん人気

たりと、今治の情報なら何でも拾い上げるといふサイトを目指している。文字どおり、すべての情報をWeb上に置いていく。開設から2年間は毎日2記事。それから毎日1記事投稿するのを、4年以上継続している。記事総数は2000件を数え、毎月約20万回のアクセス、5万人が訪れるサイトになっている。人口16万人の都市で、生産年齢人口の半分以上が毎月見てくれているという計算だ。遠くまで来たものだから投稿されている記事の内容はなんの変哲もないものばかり。言ってしまうと誰にでも



県外から人を呼んでオフラインイベントも

と、形を変えた「市民参加型」が実現しているように思う。4年間、1日も途切れることなくよく続けられたなど、思う一方、常に「飽き」との戦いがある。開始当初

投稿できるような内容だ。それゆえはじめは「市民参加型」を掲げ、経験がなくとも、市民ライターとして、希望した方々に記事を書いてもらった。当然私もその一人だった。現在は1日1記事に変更したこともあり、ほとんどそうだったことはないが、今ではいろんなお店の情報を提供していただいたり



取材先は農業にも及ぶ

から心配した「ネタ切れ」も当然危機感としてある。ただ、みとん今治が取り扱う情報は「今治にまつわることを全て」であり、「人」という部分にフォーカスを当てれば、約16万人。さらには今治を出て県外や海外で生活する方も合わせると、半永久的に取材対象に困ることはない。2020年に入り、YouTubeチャンネルも開設した。Webの世界でのトレンドは動画だ。テキストにはない魅力がそこにはあり、扱う情報によつてはその力は何倍にもなる。それこそよく知ることができる。まだまだコンテンツは少ないが、今後はこの分野に力を入れていくことになると思う。



今後は動画事業にも注力していく

今治を知る。そこに何かがある

なぜ、Webサイトを作ったのか。今治のことを自分自身が知りたかったからだ。これから今治に住むことで、何が知りたいか。どんなことに興味がわくのか。ただその興味から始まっている。個人的には「まずは知ること」を何よりも重要視している。

知らないことは怖いことで、人は敬遠してしまう傾向にある。好き嫌いは、知った上で判断したい。地方に住む人たちがよく口にする「田舎はなにもない」は「まだ知らない」ということであり、その先にある可能性を私は信じている。場所やお店はもちろん、人についても同じだ。地域の活性化なんて正直あまりわからないうし、何を持って成功とさえいえるかがわからないものを追い求めることは非常に困難だ。場所を知り、人を知ること、動き始める。

その動きの連鎖が熱を生み、その熱に当てられて起こるアクションに興味がある。その数こそが地域の力であると思っている。Webサイトだけで地域は何も変わらない。ただ、まちを知ることができると。その先はみんなと一緒に作っていききたい。

みとん今治

<https://miton-imabari.jp/>

